

# 脳神経内科

## 1. 概要

2020年のスタッフは、関連医局である名古屋大学脳神経内科の人事異動により、2020年3月に小林が異動、同年4月前田が赴任し、5名体制継続であった。同年6月に前田は異動、同年7月に松本が赴任となった。また、小野田の赴任も得られた。松本については同年12月までの勤務となった。

年々増加していた総入院患者数は、新型コロナウイルス感染症による社会情勢・医療情勢の影響もあり、2020年は978人と前年よりわずかに減少した（2019年1,010人、2018年985人、2017年911人、2016年795人）。

定床40床をオーバーすることが常態化していたため、配分見直しが行われ、定数45床に増床、収容については緩和された。しかし、新型コロナウイルス感染症関連により、南1階病棟が使えなくなったため、多くの病棟に入院患者が分散となり、回診に時間を要した。

2020年の主なトピックは、以下のとおりである。

- ①東病棟5階および東病棟9階など従来と異なる病棟への入棟が増えた。
- ②比較的重症の患者さんに限り、西病棟2階での管理となった。
- ③前年同様、高齢患者の軽症脳梗塞や一過性脳虚血発作が目立った。
- ④高齢者のてんかん関連、意識障害関連の入院も変わらず目立った。
- ⑤慢性炎症性脱髄性多発神経炎の患者、γグロブリン維持療法反復入院が多い。
- ⑥家族背景や社会的背景の難しい患者が多く、安定後の療養先について患者や家族への早期説明の実施や、患者総合支援センターによる介入が多かった。

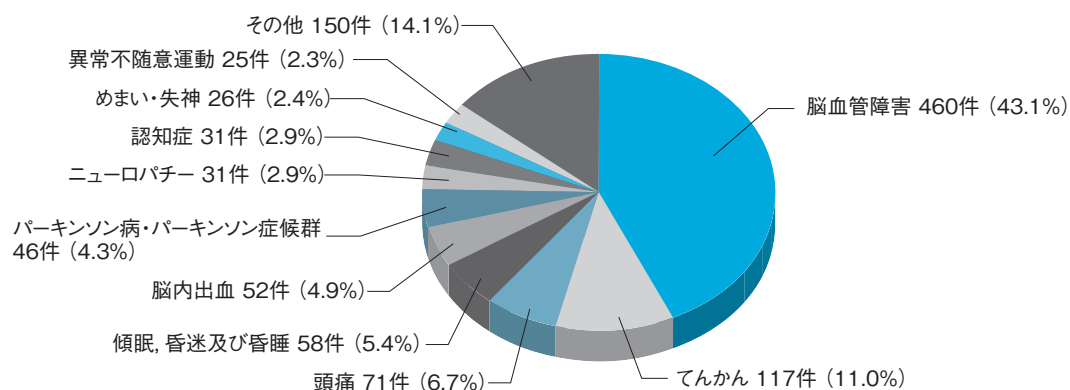
外来診療においては、空野前部長が勇退され、非常勤医2人の応援を得て診療を行っている。外来の年間受診者総数は、12,443人で前年の11,929人と比べて500人余増加、また初診患者数は1,070人と前年の1,186人と比べて100人余減少した。MCR体制に加え、紹介状持参での予約外患者も多いが、診察数等を増やし、可能な範囲で対応している。

日本神経学会の決定を受け、当科においても2019年4月より「脳神経内科」と標榜し、なじんできたと思っている（当院では1975年の「神経内科」標榜が端緒）。

（部長 岩井 克成）

## 2. 新規登録疾患

総数：1,067件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
脳血管障害	脳動脈の血栓症による脳梗塞	220	I633
	脳梗塞の続発・後遺症	58	I693
てんかん	その他のてんかん	52	G408
	てんかん, 詳細不明	51	G409
頭痛	頭痛	52	R51
	緊張性頭痛	12	G442
傾眠, 昏迷及び昏睡	昏睡, 詳細不明	58	R402
脳内出血	(大脳)半球の脳内出血, 皮質下	22	I610
	脳内出血, 詳細不明	20	I619
パーキンソン病・パーキンソン症候群	パーキンソン病	42	G20
ニューロパチー	多発(性)ニューロパチー, 詳細不明	22	G629
認知症	アルツハイマー病, 詳細不明	18	G309
めまい・失神	めまい感及びよろめき感	25	R42
異常不随意運動	(有痛性)けいれん	15	R252

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	11,618人	年間外来新患者数	1,396人
年間入院患者数	16,595人	年間入院新患者数	955人

#### (2) 神経難病6疾患

	疾患名	件数(件)
1	パーキンソン病・パーキンソン症候群	42
2	重症筋無力症	12
3	筋萎縮性側索硬化症・球脊髄性筋萎縮症	10
4	脊髄小脳変性症	5
5	多発性硬化症	4
6	多系統萎縮症	3
	計	76